就職活動応援特集

チーム力で成果生み出す

月島テクノメンテサービス
エンジニアリング本部
プラント技術部プラント技術課
田村 俊樹さん

■入社3年目から大型案件を担当

今年で入社9年目になりますが、大学では河川水質などを研究対象としていました。水に関わる仕事に就きたくて、大学の恩師から当社にOBがいて、その仕事のお話から特にエンジニアリングについて興味を持ったことがきっかけで入社しました。

入社してからはプラント技術課に4年間、その後営業部門に配属され、昨年から現部署に戻ってきました。当社は入社まもない若い頃から、業務を比較的任されることが多く、入社3年目には新規設備案件を先輩方から引き継ぎ、主に担当しました。大変でしたが、さまざまな現場に関わり、経験を積むことができたのが最初の4年間でした。

営業部門では、その現場を実体験できたことで、お客さまが具体的に望んでいることをつかめましたし、営業の仕事の流れや立場を踏まえて、技術側からより突っ込んだ意見交換ができるようになりました。現部署に戻ってからは、意識的に営業の考え方を同僚に伝えていますし、営業時代の仲間とも率直に問題点を言い合える関係性をつくれたのも、今の仕事に生かされています。振り返ると、お客さまのニーズに応え、より良い仕事にするために、部門間の人事交流を経験できたのは大きかったと思います。

■仕事の意義、やりがい実感しやすい会社

先ほども話した通り、当社は入社3年目から案件を任されます。もちろん、先輩方のサポートあってこそですが、やはり仕事のやりがい、責任感は強く持ちますし、自分で計画したものが徐々に形となって見えてくるのは本当に面白いですね。さらに、下水処理場であれば周辺住民の生活に役立っていることがわかりますから、この仕事の意義を実感しやすいのが当社の良さの一つだと思います。

■探求心を持った方と仕事をしたい

当社らしさは、早い時期から任せる、そして困っていたら皆で声をかける、分け隔てなく意見を言い合えてより良いものを目指すところだと思っています。今の部署に戻り、後輩をサポートする立場にもなりましたので、意識的に取り組んでいます。

コロナ禍で就職活動も大変だと思いますが、少なくとも業界全般について徹底的に調べることが自らをPRする上で大事です。浮き沈みの少ない業界とは言え、自社製品や維持管理に新しい技術を取り入れるなど、進化していかなければ続いていけません。そうした探求心を持った方と一緒に仕事をしたいと思っています。

現場経験と知識の積み上げ

クリアウォーターOSAKA
事業部設備課
島 明日香さん

■現場での仕事

今年の春に入社した1年目社員ですが、早々にコロナ禍となりました。

私の仕事は、主に大阪市の下水処理場の設備や管路といった現場における施設の保全や点検といった業務を担ういわゆる「止められない」仕事です。そのため、職場で感染者が発生するリスクを考慮し、出勤率を調整するなどの対応を社として行っています。

そのような中、現在は研修期間として南部下水道事務所で最初の1年間を過ごしています。4月からの半年間は住之江下水処理場で処理場内の業務を経験し、10月からは住之江管路管理センターで主に管路に関する業務を学んでいるところです。

業務内容としては例えば、新しく宅地を建てる時には「公共ます」（宅内から排出される全ての排水が合流します）を必ず設置しなければなりませんが、この公共ますの設置に当たって必要である、大阪市や警察署への各種申請といった学生時代には全く知らなかった、地道でもやりがいのある仕事を行っています。

■生活を支える地下施設

勤務している南部下水道事務所のすぐ近くにある住之江抽水所（ポンプ場）で、巨大地下施設を見学したことが印象に残っています。抽水所は、大雨が降った時に雨水を河川に排水する施設で、住之江抽水所は地下40㍍に雨水排水のための口径2200㍉のポンプが6台設置され、計画排水量は毎秒73立方㍍と市内最大級です。

大阪市は雨が降ると自然に排水することが難しい低地が多いため、このようなポンプで排水を行う必要があるのですが、いざ実物を目の当たりにすると息を呑みました。

この施設の地上部分は多目的グランドとなっていて、多くの市民に利用されていますが、地下にこのような施設があるとは気付かないと思います。しかし、誰もの「当たり前」を気付かれないながらも支えるのがインフラなのだと、自分の仕事の輪郭がわかったような気がした経験でした。

■日々の積み重ねが近道

下水処理場の仕事は水質、機械、電気など多様な分野で構成されているのが特徴です。今は現場業務と並行して、資格取得を目標に自分の専門以外の知識の勉強も積み重ねています。机上の知識と現場での経験を並行して学ぶことで「1が1だったものが、1が3にもなる」と教わりました。

1日も早く一人前になりたい気持ちもありますが、着実に歩んでいきたいです。

水を仕事にする魅力、やりがい

悩み、相談へ真摯に向き合う

極東技工コンサルタント
東京本社総務部
小松 雅奈さん

■「正直」な業務に共感

就職活動では失敗が続いて自信を無くしていました。そんな時、当社の面接で思い切って「どこがだめなのでしょうか」と聞いたところ、「面接官は学生のだめなところではなく、良いところを探している。あなたはまっすぐな心をしている」と言われ、心が救われた気がしましたし、この会社なら自分の良さを最大限に引き出してくれると確信しました。

また、就職活動中にさまざまな職業を拝見してきましたが、人間が常に求めている水・環境の安全や安心を「正直」に売っている業務に魅力を感じました。

■顔を売って信頼関係構築

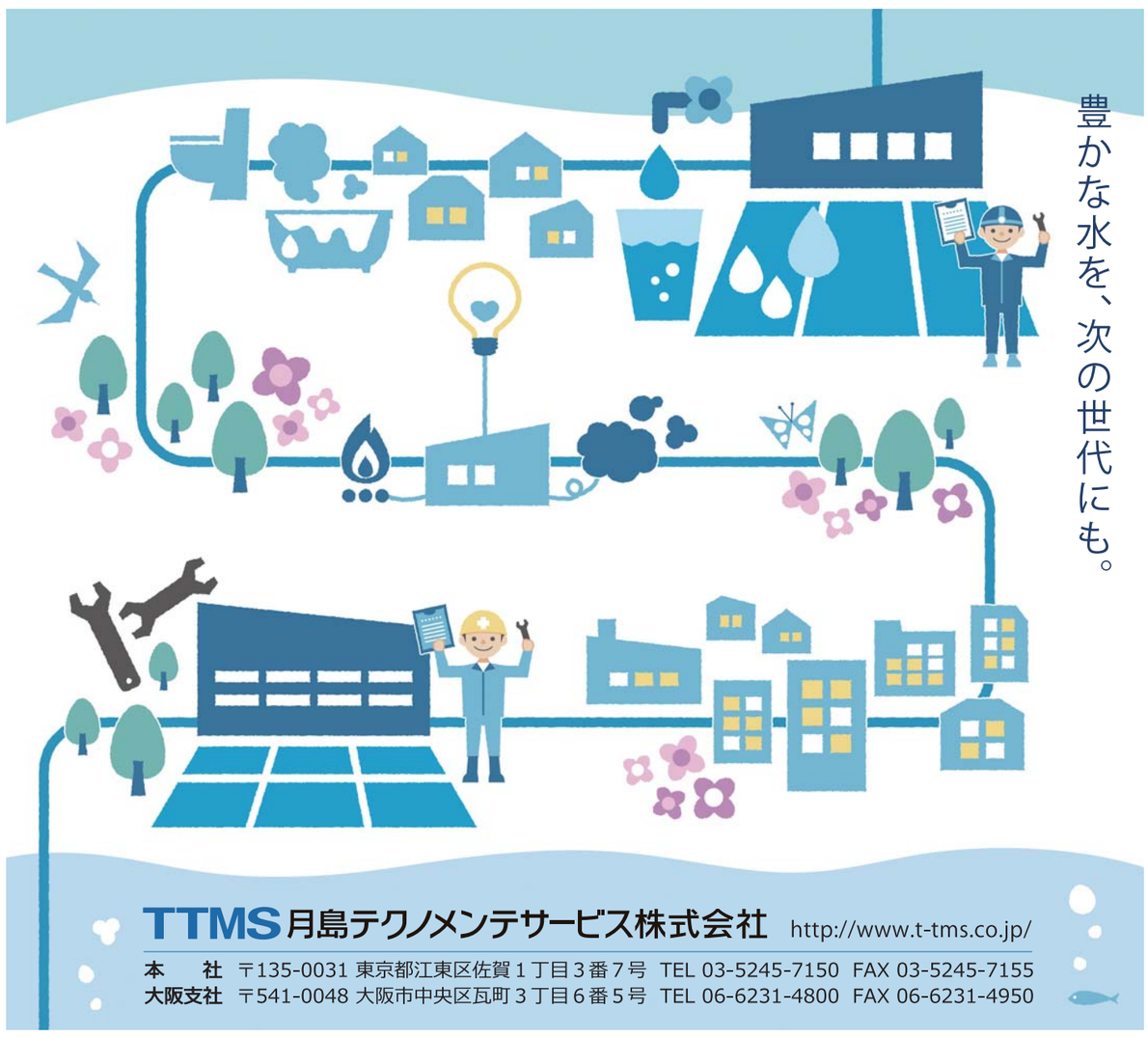
入社の3カ月後に会社説明会に同行したのですが、担当した学生に当社の心臓部である「設計」や「技術」をうまく説明できませんでした。ですからこれらの概要を自分の目で見て学ばなければいけない、と反省しました。

特に今は大学の教授や学生の知識も非常に豊富なので、日々勉強しています。大学キャリアセンター向けなどリクルート活動に従事しており、インターンシップも担当していますので、学生にはなるべく難しい言葉を使わず、一から丁寧に説明するよう心掛けています。

また、研究室の学生は、先輩や教授の話が就職先を決める大きなファクターになっているようです。まずは大学の先生方に顔を覚えてもらい、つながりや信頼関係を構築して、さらに良い人材を採用できればと考えています。

■社員の意見も積極的に

ワンフロアで社長はじめ全ての社員の顔が見える風通しの良い会社です。人事考課後の社長との面談は、社長に業務報告をしながら時には悩みも打ち明けるようなスタイルで、そこで出た社員からの相談なども積極的に制度に取り入れています。

まずは社員を第一に考えますから、台風などの際は出勤前に安全性を判断して連絡が入りますし、安否確認もシステムとして構築されています。状況に応じてテレワークに対応できるような機器も随時導入しています。

コロナ禍で他業界は給与面など大きく影響を受けました。ただ、当社の影響は最小限で、水という必要不可欠なものに関連した業種が安定していることが証明できました。自信をもって学生に奨められる業界、そして会社だと思います。ぜひ何でもご相談ください。